



地域と共に

2019年10月号 (秋季号)

Vol.80



- 放射線科常勤医が着任
- 外来化学療法室
- 患者サポートセンター
- 診療科紹介 第8回 小児科
- 市民公開講座を開催

基本方針

1. **患者第一主義** 常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します。
2. **安全確保** すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り、安全で質の高い医療を提供します。
3. **社会貢献** 良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします。
4. **公正で透明性のある病院** 高い倫理観に基づき様々な情報を開示します。
5. **働きがいのある職場作り** 創造性、主体性を尊重しあい自由で働きやすい職場を実現します。



<http://www.sagaminojcho.go.jp>



Security
優れた安全対策で皆様を守ります。

Service
先進の医療を快適に提供します。

Speed
すべてに迅速な対応を心がけます。

Sympathy
患者の皆様と思いを共有します。

放射線科常勤医が着任

放射線科医長 山根 拓郎

2019年4月から放射線科常勤医に着任した山根です。今回は放射線科についてご紹介させていただきます。

現在、当院放射線科は常勤の専門医1名、非常勤の専門医2名、放射線技師18名、兼務看護師、事務員2名で日々運営されています。当院の診療部門では2018年度にCT 7051件/ MRI 2552件が施行され、このうち地域連携室を介した外部施設からの依頼はCT 261件/ MRI 299件でした。当科ではこれら検査の読影レポート作成を行っています。

常勤医が来たことで、検査実施からレポート作成までの時間が短くなりました。緊急所見や予期せぬ重大所見が認められた場合には検査依頼医へ直接口頭連絡を行う体制とし、医療の質の向上に努めています。外部施設からの依頼検査での緊急所見に関しては、地域連携室を介して依頼元に連絡する対応を行っています。

近年放射線科医の読影業務が一般的に知られるようになりましたが、放射線科医の業務は読影だけではありません。放射線科医の大切な役割として、検査の質の管理が挙げられます。検査方法は適切か、画像の質は保たれているか、画像表示方法は適切か、患者さんに負担がかかりすぎているかなどの管理を診療放射線技師と連携しながら行っています。

2019年4月から8月までに、体幹部CTの撮影・表示方法の改訂とMRI検査の表示名の変更を行いました。

CTは撮影条件の最適化（撮影時相や範囲を適切に調整すること）を行うことで、患者被ばくの低減を図りました。画像は従来7mm厚で表示していましたが、画質を担保しつつより一般的な5mm厚で表示できるようになりました。

MRIは各画像シリーズが装置特有の呼称で表示されていましたが、可能な限り一般的な名称に統一しました。各診療科の先生方や他施設の方にも分かりやすく、当科からの読影内容もより正確に伝えられるようになりました。

今後もより適切な検査・画像の提供と読影レポート作成を通し、地域医療に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。





外来化学療法室



がん化学療法看護認定看護師 **大嶋 美加子**

外来化学療法室は相模野病院の2階治療エリアの内視鏡室の隣に有ります。

入院で1回目の化学療法が終わった後、2回目からは通院で治療を行います。

3つのベッドと5つのリクライニングチェアを備え、皮下注射を含め1日最大18件の治療を行っています。

治療件数は1ヶ月200件前後で、内訳は血液内科65%、乳腺外科17.1%、消化器外科9.7%、泌尿器科3.7%、呼吸器内科2.7%、消化器内科1.8%(2019年7月実績)です。



当院では、化学療法以外にも分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の治療を行っています。

看護師は4人体制でそのうち1名が、がん化学療法看護認定看護師です。

日々、投与管理、有害事象の対応（症状マネジメント、セルフケア支援）、患者さんの精神的支援と意思決定支援、家族ケア、看護師間や多職種との連携などを実践しております。また、希望される方にはがん患者相談（保険診療）を行っています。

お気軽に
ご相談ください



患者サポートセンター 看護師 **鮎澤 奈穂子**

当院では「患者相談窓口」を8月より開設いたしました。

これまでも患者さんやご家族の声にはソーシャルワーカーや医事課の職員が対応していましたが、今後は専従の看護師が対応していきます。

患者相談窓口は、患者さんやご家族からの病気に関する質問、並びに生活上の不安等、さまざまな事に対応し、ご相談があった

場合にはまず看護師がお話を伺い、その後、内容によっては専門的な知識を持った職員にバトンタッチをします。

外来・入院など受診に関すること、治療費用に関すること、治療内容、接遇についてのご相談など幅広く対応させていただきます。また退院後の生活についても可能な範囲でサポートさせていただきます。これら以外にも「何だかよく分からない、もやもやする」などありましたら遠慮なく、1階にあります患者相談窓口へお越しください。

患者さんやご家族の思いを聴き、安全で安心な医療の提供ができるように取り組んでいきたいと考えています。



小児科

小児成育医療センター主任部長 今井 純好

診療科紹介

第8回



相模野病院小児科は小児科外来、病棟(NICU(新生児集中治療室)/GCU(回復治療室)、一般小児科、母子センター新生児室)を常勤小児科医師4名(4月から半年は3名)、非常勤医師数名と看護師・看護助手・事務員スタッフで協力し診療しています。

本院の特徴であるNICU/GCUでは本院出生児のみならず他院出生新生児患者も受け入れ、北里大学病院等新生児医療基幹病院の急性期治療に滞りがないよう、

基幹病院からの患児の転院等、年間260名前後の在胎週数28週以降の早産児、呼吸・循環器・消化器疾患等の新生児が入院しています。母子センターではお母さんが安心して出産できるよう分娩に立会い(帝王切開全例、通常分娩は必要に応じて)、また新生児の定期診察、診療相談に対応しています。小児科外来は午前中一般外来、午後は予約制で予防接種・乳児健診・NICU/GCU退院児のフォローアップ、慢性疾患のフォローアップを行っています。

NICU/GCU、母子センター等新生児の対応は365日24時間体制で行えるよう頑張っていますが、一般小児科としての時間外対応・入院対応は種々の事情により十分なものではありません。本院には出来ること・出来ないことはありますが、成長をしていく子供たちをずっと診てあげられることが私たちの喜びであり、またそんな子供たちから日々活力をもらっています。



秋の市民公開講座を開催します

「気になる、おしっこの話」

JCHO 相模野病院 泌尿器科部長 平井 祥司

2019年11月15日(金) 14:00より 当院7階講堂

たくさんの皆さまのご来場をお待ちしております



独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30

TEL:042-752-2025(代) FAX:042-754-9543(代)

発行責任者:野田 吉和 企画・製作:広報誌作成委員会